

各 位

2015年3月9日
株式会社リットーミュージック

カリスマ・ドラマー、中村達也の生誕 50 周年を記念した“東京 9 Days”を
『リズム&ドラム・マガジン』が完全レポート！



インプレスグループで音楽関連の出版事業を手がける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役：古森優）は、3月13日、音楽専門誌『リズム&ドラム・マガジン 2015年4月号』を発売します。

30年以上のキャリアを持ち、今年1月に50歳を迎えたカリスマ・ドラマー、中村達也。そのアニバーサリーを記念して敢行された、“9 Souls -Anniversary of Drums Beast-”と題した9つのプロジェクトのスペシャル・ライヴの東京公演を、本誌が撮り下ろしの写真と共に完全レポートします。今回、初お披露目となった新たな愛器“イエロー・ドッグ”を含む、ライヴ機材も一挙公開。節目を迎えた中村達也が自身の“過去”、“現在”、“未来”について語る1万字超えのロング・インタビューも必見です。22ページにわたり、“ドラマー・中村達也”の真像に迫ります。本人直筆サイン入りポスター（5名様）とシグネチャー・スティック（3名様）の読者プレゼントもあり。

■ 雑誌

『リズム&ドラム・マガジン 2015年4月号』

表紙：中村達也

発売：3月13日

定価：（本体 857 円＋税）

仕様：A4 変型判／164 ページ

商品詳細はこちら <http://www.rittor-music.co.jp/magazine/dm/>



50th Birthday Anniversary 中村達也

Tatsuya Nakamura

今年1月4日に50歳の誕生日を迎えた中村達也。
そのアニバーサリーを記念し、「9 Souls - Anniversary of Drums Beast」と題して、
去る8月に彼が携わった69つのプロジェクトのスペシャル公演が行われた。
強烈な個性を突きながらも、演奏者のプレイに呼吸し、カラーの異なるサウンド&グループを繋り広げ、
各公演に訪れたオーディエンスを熱狂へと導いた達也。
30年以上に渡りタイコを叩き続けてきた彼は、今、どのようなドラムと向き合っているのか。
今回の特集では、そんなドラマー・中村達也の「現在」に迫ってみたい!

撮影:石井康夫 取材:文芸春秋/ラムカムカン編集部



Day 3 TWIN TAIL ~11th January 2015 @渋谷WWW~

中村達也と藤井三枝を中心とするTWIN TAILは、中村+LOSLOSOL、藤井+ROVORのいう2人(人)を、組み合わせるとの意匠(TAIL)に思えてバンド名をつけられたという。そこに藤井がロス+LOSLOSOLなどを担当、加藤祥司にフジの多い録音作業、音田利義を以てして加え、ハイテク的な映像の放映と即興的な演奏の相乗効果をもたらす「ライヴシネマ」という独自のスタイルで、ステージを構築する。2006年に始動し、徹底した制作へのこだわりから、前回は2013年1月と、この日は2年のスパンを経ての久しぶりのライヴだ。中村は、音田利義の録音時の声(2009年に録音として発表された「M FLASH」(2012年))でも、演技と音楽を担っている。会場の渋谷WWWは、もともと映画館だったところをライブハウスに作り直したスペースで、ステージ奥がスチールになっていて、「ライヴシネマ」にはぴったりな場所だ。そのステージに無人の渋谷センター街が映し出され、ライヴはスタート。やがて盛り上がる人々の声。その声の中で、この夜は始まる。シンバルとヴァイオリンで幻想的に始まった演奏は、ギターのアムペリオンで導かれ、短い音の波に下流していく。潤滑な音の波、次第にやわらかな音と次第に鋭くなる音。高い音が射し渡るような感覚だ。ドラムズを彷彿とさせるサイクな演奏は、しかし、中村の繊細なようなドラムを台座に置いた演奏者へ。下流へベクトルが転ぶ。その瞬間、中村は手を叩き、鼓面のヴァイオリンが強く鳴り響く上昇ベクトルへ転換する。高速度をバックが演奏するシーン、扉まで外に達した中村が水面を叩き続ける映像など、観客のイメージが膨らんだ。その行為が美しいレイクエームとも思えるメロディを叩く。中村は大きくゆったりグループする8ビートをこれに合わせ、80分間、何れもなく続いた演奏は、大団円のエンディングへ。閉場まで出て出ないが、世界を大きく一周したような、息の詰まりに近い感動が残るライブだった。映像の最後には「PLANETIST VS BABYLON」というタイトルが掲げられた。

■TWIN TAIL
中村達也(ドラム)、藤井三枝(ギター)、大野拓也(ベース)、スチール(音) - 録音:藤井三枝、音田利義

E.O.R.は、2007年春にSOLA&PMP SESSIONSのアップテンポの中村達也が、新たな自由を模索する活動的加納のセッションに、ストレイチーの日向秀和が加入し、その後、元SOLAのメンバーで、必ず、Superflyなどのプロデュースを手がける高杉良介が加わり、現在の強力な布陣となった。この3人がコアメンバーで同時に各自公演を行なった際に出演要請を受け、それまでライブ未経験の状態だったにもかかわらず、見事に対処しこなしたという逸話もある。
この日、メジャー音源、 zeroesのロックンロール「Do You Remember Rock & Roll Radio?」をロックにステージに挑めると、すぐにオープニングのセッションを開始。レジェスタイルのランニングベースに、中村は zeroesのリズムを演奏したタイトなスクアートを合わせ、軽快な雰囲気を出す。加藤祥司の異色のグレイのニューセイトも、さす(負)負(負)で、その一方で、エフェクトのかかったアップテンポのメタリックなドラムは、徐々に会場の空気をチャイブに変えていく。ファースト・アルバム「山岳部」の「コトバトイ」は、ゆたかとしたリズムでファンキーなグループ、続く「Black Venus」と「TAXI(風林火山)」には、どこかブラジルの匂いがし、ここまでの前4曲には、軽快さや深さ、ダンスが踊るようなリズムが特徴的な楽曲を聴かされた。実は編成でよく知られたアップテンポと想像。だがそれら4曲の間、次の曲の曲調打のセッションのハチャメチャな無難さがあり、完全に平らされた。その後も「グラスツツ」と



Day 4 E.O.R ~16th January 2015 @代官山UNIT~

- Set List
M-1 Lenses M-6 タツツツ
M-2 クロウディング M-7 TELL ME
M-3 Black Venus M-8 演舞
M-4 WALKING ON THE WAVE M-9 アフタガタ
M-5 クラスメイト M-10 クラッシュ
M-6 New man EN-1 オープンセッション
M-7 ハッピー EN-2 シンバルロール



■E.O.R
中村達也(ドラム)、加藤祥司(ギター)、日向秀和(ベース)、中村達也(音)

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地:〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング □設立:1978年4月10日 □資本金:1億 6,900万円 □決算期:3月31日 □従業員数:93名(2014年3月31日現在) □代表取締役:古森優 □事業内容:音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:関本彰大、証券コード:東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 営業統轄部出版営業部 宣伝広報
Tel: 03-6837-4728/ E-mail: pr@rittor-music.co.jp